

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：31104

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12590

研究課題名（和文）児童虐待予防に繋がる保健師の記録様式標準化と記録に関する教育プログラム開発・評価

研究課題名（英文）Development and Evaluation of an Educational Program Emphasizing the Standardization and Recording of PHN Recording Formats for Child Abuse Prevention

研究代表者

柳澤 尚代（Yanagisawa, Hisayo）

弘前学院大学・看護学部・教授

研究者番号：10310369

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、「児童虐待予防の記録様式の標準化と記録に関する教育プログラムの開発及び評価を行うこと」である。目的の達成のために、「記録様式の標準化」、「母子保健における記録の実態把握と課題」、「教育プログラムの開発と評価」、の3つの観点から検討した。その結果、活動の質改善には記録様式の標準化は不可欠であることを明らかにした。さらに、「内部研修（学び直し等）」と「システム化」の2つの視点から、経験学習理論に基づく研修プログラムを開発した。今後の課題は、教育プログラムの評価項目の妥当性を検証することである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、支援記録を通じた活動の質向上及び有効な他職種連携の構築をめざすものである。記録様式の標準化は、活動の質向上や多職種連携に不可欠であることから、保健師の意識変革が求められている。また、保健師の分析力の低さが、活動の課題の一つと指摘されている中で、活動評価の分析を助ける記録様式の開発と普及は実践力を高めるツールともなる。さらに、支援過程のプロセスの可視化は、活動のエビデンスを発展させる上でも学術的意義がある。児童虐待支援では多職種連携が活動の基本であり、標準的な記録様式と教育プログラムの開発は、保健福祉専門職の実践能力の向上に寄与し、実用性と汎用性が高いため社会的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted to “develop and evaluate an educational program emphasizing the standardization and recording of child abuse prevention formats.” We approached that goal from three angles: “standardization of recording formats,” “elucidating the actual conditions of recording in maternal and child health and challenges,” and “development and evaluation of an education program.” Results revealed that the standardization of recording formats is absolutely necessary to improve the quality of activities. A training program was developed from the two perspectives of “in-house training (e.g., relearning)” and “systematization” based on experiential learning theories. Our future challenge is verification of the validity of evaluation items in the educational program.

研究分野：看護学

キーワード：保健師 児童虐待予防 支援記録 教育プログラム 開発 評価

【様式 C-19, F-19-1, Z-19 (共通)】

1. 研究開始当初の背景

(1)保健師の記録については、従前から保健師活動の特性を踏まえた記録(Plan-Do-See 様式)¹⁾が提唱されているが、病院等の看護記録に比べ標準化が進んでいない現状があった。(2)文献検討において、2003-2014年の国内論文で保健師の記録を扱っているものはない²⁾こと、1993年以降発刊された公衆衛生看護学の教科書の記録に関する記述量は年々減少している³⁾ことを確認した。(3)8自治体71枚の保健師の記録の分析⁴⁻⁶⁾により、支援の根拠である収集した情報やアセスメントの記述が不十分であること、支援の有効性が保証されていないこと、思考過程に沿った項目間の整合性や関連性の不明確さ、及び分類の不適切さなどの記録の実態が明らかになった。

2. 研究の目的

公的文書である保健師の支援記録には、「ケアの質向上と質保証」、「公正で民主的行政の実現」の観点から、根拠に基づいた実践と思考過程の明示などの「支援記録の標準化」と、保管・管理システムなどの「情報の共有化を促進するシステム」の整備が、多職種連携を強化し推進するうえで必要である。児童虐待予防等への効果的支援は、自治体が模索する共通課題であるが、支援記録を通して支援の妥当性を確認し、評価し、次の有効な支援の方策を導き、支援の質を支えることで活動の実践力を高め、行政による組織的対応を可能とする連携促進ツールの開発は重要である。本研究は、児童虐待予防に繋がる保健師の記録様式の標準化と記録に関する教育プログラムの開発及び評価を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

(1)本研究は、児童虐待予防等、今日的に重要課題である母子保健活動の支援記録に対して、新しい知を創出するアクションリサーチの方法を用いて、現場の保健師の参加のもとで、多職種連携に寄与できる「記録に関する現任教育」の内容検討を実現できることであった。なお、フィールドは自治体等からの研修依頼のあった施設を対象としたので協力関係が得られやすかった。

(2)研究目的を達成するため、【第一期：支援記録に対する保健師の認識の把握と構造化】、【第二期：アクションリサーチによる記録様式および現任教育プログラムの開発と評価】に分け、研修会の前後のアンケート調査およびグループワーク等により、対象者の認識を把握した。第二期では、第一期で明らかになった支援記録に関する認識と構造化の研究成果を用いて、記録様式の標準化と教育プログラムの開発と評価を並行して行った。本研究は、アクションリサーチにより研修会の参加者と協働で研究を進めた。

(3)研究成果の共有および先進自治体の事例の紹介などのために、学会において自由集会およびワークショップを毎年開催し、実践活動の交流を目指した。

4. 研究成果

1) 保健師記録に関する自治体の組織対応および記録作成の実態と課題

(1)2017年度に、全国6地域(宮城県、静岡県、新宿区、愛知県)からの要請で開催された記録研修会の受講者を対象に、受講前後にアンケート調査を実施した。配布数219枚のうち、回収数は217枚で、全てを有効回答と分析対象とした。回収率は、99%であった。内容は、「対象者の属性」、「所属組織の組織対応」、「情報開示の現状」、「家庭訪問に関する記録作成の現状」で構成し、オリジナルな調査用紙を作成した。解析は、項目間の関連についてカイ2乗、フィッシャー直接法検定にて実施した。

(2)結果： 所属組織の包括的記録マニュアル有(9.1%)、記録供覧有(83.6%)、管理は、職場(96.3%)、個人(4.1%)で、管理責任者有(38.4%)、保管場所鍵有(46.6%)であった。文書保存年数有(63.6%)、保存期間の基準は法律(31.5%)、慣例(28.3%)であり、廃棄方法有(84.5%)であった。情報開示請求の経験有の保健師は19.6%、請求者は行政機関(9.1%)、家族(7.8%)、本人(6.4%)であった。家庭訪問の記録媒体は、記録用紙(60.7%)、電子カルテ(6.4%)、混合(30.6%)で、記録様式は横罫線用紙(65.3%)、PDS様式(19.2%)、その他(20.1%)であった。保健師の経験年数(10年区分)と「記録で困っていること」との関連では、「基本的なことがわからない」($p < 0.000$)、「情報分析とアセスメントの記述で困っている」($p < 0.001$)、「当事者には伝えたくない

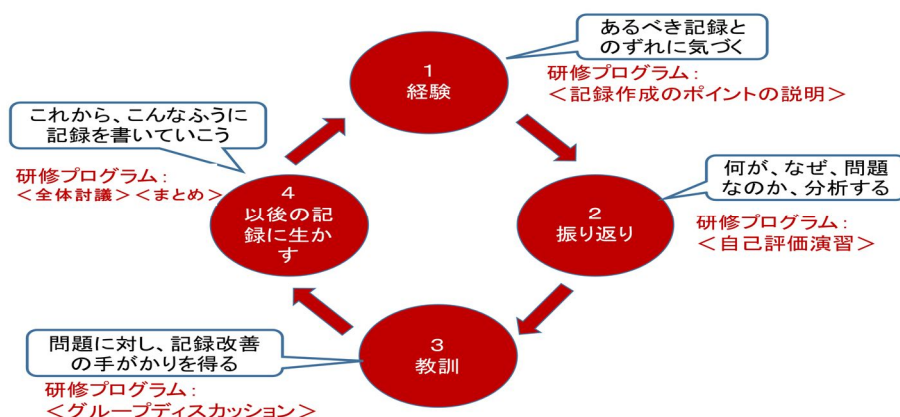
情報の記述の可否に迷う」($p < 0.001$)、「情報分析とアセスメントの記述が分からない」($p < 0.01$)で有意な差があった。保健師以外に看護職経験ありと「記録で困っていること」では、「SOAP で書き続けてよいか迷う」($p < 0.008$)であり、現勤務先(保健所・市町村)と家庭訪問の記録様式との関連については、「PDS 様式使用」($p < 0.013$)で有意な差があった。

(3) 考察：保健師記録に関する所属組織の対応は、マニュアルの作成などのルール作りや管理体制の整備に課題を抱えている状況が明らかになった。とりわけ、個人で相談記録を管理(4%)、個人の机で保管(14%)など、公文書である相談記録の保管管理に問題があり、法令に基づいた管理体制が求められる。保健師は開示請求を受けた経験あり(20%)であるも、関係部署との話し合い(23%)の機会は少ないなど、開示請求に向けた対策が進んでいない状況が明らかになった。保健師が使用する記録媒体は、61%が記録用紙であるにもかかわらず、保健師の65%は横罫線用紙に記載しており、活動の思考過程を示すことができていない可能性が示唆された。

2) 保健師記録の質改善に向けた研修プログラムの考え方

(1) 4地域における保健師記録の実態について「内部研修」と「システム化」の過程を分析・考察することで、図1(経験学習理論⁷⁾に基づく研修プログラムの構成と記録の質改善)を作成した。研究者らが提唱する研修プログラムの考え方は、コルブの理論を松尾⁷⁾が修正したものを検討した。(2) 経験的学習理論に基づく研修プログラムは、～のサイクルで構成する。___「**経験**」：あるべき記録の理解をもとに自他の記録を読み、自分の記録についてあるべき記録とのずれや特徴に気づくなどの経験が重要である。研修会では、質改善に向けての気づきを得ることをポイントにしている。___「**振り返り**」：何を振り返るかが重要⁸⁾であり、何が、なぜ、問題なのかを考えることである。これらにより、「このように判断すればよい」などの、記録改善の手がかりを得ることが可能になる。___「**教訓**」：手がかりから、今後の教訓を導くことが可能になる。___「**以後の記録に生かす**」：これから、こんな風に記録を書いていこうという具体的な教訓を得ることができ、次の記録に活かすことが可能となる。(3) 日々の業務に基づく記録の質改善の仕組みは、「あるべき記録の考え方と手本となる記録」の意図を理解し、自らの記録の読み方への気づきを強化することに繋がる。とりわけ、記録の表現や内容を多様な視点から読むことが経験につながる。例えば、受講者の自己評価(振り返り)シートに記載された、「目的・アセスメント・支援内容など項目を分けて書いておらず、それらの関係性を考えていない。」との声は、PDS 様式を理解したことで、自らが作成した記録とのずれに気づいていることを示している。研修プログラムの振り返りは、自己評価演習を通して可能になっている。また、自己評価(振り返り)シートを活用して、自らの記録を評価したことで、課題を明確化できている。さらに振り返りは、グループディスカッションなど、同僚との討議を通して、今後の対応を考える機会となる。討議から、自分の記録の問題に対し、記録改善の手がかりを得たり、今後の教訓を導くことも可能となる。近年では、内省を担う単位を個人レベルでなく、集団レベル、組織レベルで実施すべきとする「組織による内省」が注目されている⁸⁾。

図1 経験学習理論に基づく研修プログラムの構成と記録の質改善



<>で示した部分は、研修プログラムと対応。松尾睦：職場が生きる人が育つ「経験学習」入門²⁰¹¹を参考にして作成

3) 研究成果のまとめ

(1) 実態把握と課題の明確化

研修会への講師派遣要請があった自治体の保健師を対象に、保健師記録に関するアンケート調査を行った。その結果、記録改善の課題として、「記録様式の標準化」、「内部研修」、「システム化」であることを明らかにした。

(2) 教育プログラムの開発および評価

保健師記録に関する教育プログラムは、経験的学習理論を応用した4つのサイクルで構成し作成した。(図1参照)アクションリサーチにより研修会の参加者との協働で創出した。今後は、普及と評価が課題である。

(3) 記録様式標準化の普及活動

日本公衆衛生看護学会および日本地域看護学会、日本公衆衛生学会にてワークショップ(自由集会)を開催し、普及活動を継続して実施している。最近では70名前後の参加者があり、記録への関心の高さと課題が解決されていない実態が明らかになっている。また、並行して商業雑誌への論文の投稿を継続することで、職場単位の内部研修(知識の更新、学び直し等)の実施、およびの職場のシステム化(人材育成の仕組みなど)を推進している。

<引用文献>

- 1) 長江弘子・柳澤尚代：こう書けばわかる!保健師記録 保健師必携．医学書院，2004．
- 2) 柳澤尚代、菅原京子、吉本照子、清水洋子：保健師活動の質保証に向けた保健師記録に関する国内の文献レビューおよび課題．日本公衆衛生雑誌．61(10)．p.556，2014．
- 3) 柳澤尚代、菅原京子、清水洋子、吉本照子：保健師活動の質保証に向けた公衆衛生看護学のテキストにおける保健師記録の記述に関する文献レビューおよび課題．第3回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集．p.163，2015．
- 4) Yamagisawa.H, Yoshimoto.T, Shimizu.Y, Sugawara.K : Challenges concerning in records written by health nurses to improve the quality of their activities . The 6th International Conference on Community Health Nursing Reseach , 2015 .
- 5) 柳澤尚代、吉本照子、清水洋子、菅原京子：保健師活動の質向上に向けた思考過程を明示する記録の課題．第4回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集．p.244，2016．
- 6) 柳澤尚代、清水洋子、菅原京子、吉本照子：保健師活動の記録における「収集した情報」の特性と課題．日本公衆衛生雑誌 63(10)．p.607，2016．
- 7) 松尾睦：職場が生きる人が育つ「経験学習」入門．ダイヤモンド社，2011．
- 8) 中原淳：経験学習の理論的系譜と研究動向．日本労働研究雑誌，639(10)：4-14，2013．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 菅原京子、柳澤尚代、清水洋子、吉本照子	4. 巻 77
2. 論文標題 保健師記録の情報開示の基本～患者本人の同意が得られない精神科受診・入院～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 328-334
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原京子、柳澤尚代、清水洋子、吉本照子	4. 巻 77
2. 論文標題 保健師記録の情報開示の基本～虐待の「加害者」による開示請求～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 608-616
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳澤尚代、菅原京子、清水洋子、吉本照子	4. 巻 77
2. 論文標題 保健師記録の質改善に向けた研修プログラムの考え方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 696-703
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳澤尚代、清水洋子、菅原京子、吉本照子	4. 巻 77(1)
2. 論文標題 保健師記録のシステムを活かした人材育成～データヘルス時代を迎えて～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 66-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水洋子、柳澤尚代、菅原京子、吉本照子	4. 巻 77(2)
2. 論文標題 相模原市の取り組み 記録のシステム化と人材育成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 158-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原京子、柳澤尚代、清水洋子、吉本照子	4. 巻 77(3)
2. 論文標題 保健師記録の情報開示の基本～開示請求をどのように捉えるか～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 248-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳澤尚代、吉本照子、清水洋子、菅原京子	4. 巻 74
2. 論文標題 職場の疑問・不安に答える 保健師記録のQ&A その2	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 338-342
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳澤尚代、菅原京子、清水洋子、吉本照子	4. 巻 73
2. 論文標題 地域包括ケアの質を高める保健師記録の仕組みづくりー保健師記録をめぐる現状と連載のねらいー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 856-863
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水洋子、波田野房枝、柳澤尚代、吉本照子、菅原京子	4. 巻 73
2. 論文標題 事例1：相模原市 記録の質保証を目指した取り組み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 944-950
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉本照子、池田裕子、藤崎京子、柳澤尚代、清水洋子、菅原京子	4. 巻 73
2. 論文標題 長岡京市の取り組み 電子化記録の活用による母子保健サービスの質保証	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1042-1049
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原京子、柳澤尚代、清水洋子、吉本照子	4. 巻 74
2. 論文標題 地域包括ケア時代における保健師記録の「情報開示」と保健師活動 その1	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 60-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原京子、柳澤尚代、清水洋子、吉本照子	4. 巻 74
2. 論文標題 地域包括ケア時代における保健師記録の「情報開示」と保健師活動 その2	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 150-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原京子、柳澤尚代、清水洋子、吉本照子	4. 巻 74
2. 論文標題 職場の疑問・不安に答える 保健師記録のQ&A その1	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 250-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳澤尚代、吉本照子、清水洋子、菅原京子	4. 巻 74
2. 論文標題 職場の疑問・不安に答える 保健師記録のQ&A その2	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 338-342
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳澤尚代、菅原京子、清水洋子、吉本照子	4. 巻 20
2. 論文標題 保健師活動の質向上に向けた保健師記録に関する文献的考察及び課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 山形県立保健医療大学山形保健医療研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件(うち招待講演 1件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 柳澤尚代
2. 発表標題 健診・医療現場における保健相談記録の書き方
3. 学会等名 第62回日本人間ドック学会学術大会 教育講演11(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳澤尚代、清水洋子、吉本照子、菅原京子
2. 発表標題 時代が求める保健師記録の仕組みづくり
3. 学会等名 第10回日本公衆衛生看護学会 ワークショップ(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柳澤尚代、清水洋子、菅原京子、吉本照子
2. 発表標題 保健師記録を活かした人材育成
3. 学会等名 日本地域看護学会第23回学術集会(ワークショップ)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柳澤尚代、菅原京子、吉本照子、清水洋子
2. 発表標題 時代が求める保健師記録の仕組みづくり！～”誰もが質の高い記録を書ける”ことを目指した職場の仕組みづくりを考えてみましょう！～
3. 学会等名 日本公衆衛生看護学会学術集会ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳澤尚代、菅原京子、吉本照子、清水洋子
2. 発表標題 時代が求める保健師記録の仕組みづくり！～記録学習から改善までの仕組みづくりの道筋と学習支援の在り方を考えてみましょう！
3. 学会等名 日本公衆衛生看護学会学術集会ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柳澤尚代、吉本照子、菅原京子、清水洋子
2. 発表標題 保健師記録に関する自治体の組織対応および記録作成の実態と課題
3. 学会等名 日本公衆衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳澤尚代、清水洋子、吉本照子、菅原京子、幾田純代
2. 発表標題 時代が求める保健師記録の仕組みづくり
3. 学会等名 日本公衆衛生看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳澤尚代、清水洋子、菅原京子、吉本照子、波田野房枝、池田裕子
2. 発表標題 時代が求める！保健師記録の仕組みづくり
3. 学会等名 日本公衆衛生看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳澤尚代、菅原京子、清水洋子
2. 発表標題 保健師記録に関する研修会の実践例とその効果
3. 学会等名 日本公衆衛生看護学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柳澤尚代、清水洋子、菅原京子、吉本照子
2. 発表標題 より良い記録を書くための職場としての体制整備を考えてみませんか？
3. 学会等名 日本公衆衛生学会自由集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	菅原 京子 (Sugawara kyoko) (40272851)	山形県立保健医療大学・保健医療学部・教授 (21501)	
研究分担者	吉本 照子 (Yoshimoto Teruko) (40294988)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授 (12501)	
研究分担者	清水 洋子 (Shimizu Yoko) (90288069)	東京女子医科大学・看護学部・教授 (32653)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------